

海老名災害ボランティアネットワーク、平成 29 年度、第 11 回、定例会 議事録

開催日時：2018年3月1日（木）19時～20時45分

開催場所：海老名市総合福祉会館、第3娯楽室（1階）

出席者（敬称略）：橋本、水本、野本、小澤、中村、松井、佐々木、三宅、福田（議事録作成）

（1）各担当より

●会計より：2018年2月末日の残金 248,290円

平成29年度の会費納入済みの個人会員 22名、賛助会員 15名、団体会員3団体

（2）活動報告（2月定例会以降～3月定例会まで）

- ① 2月9日（金）9時30分～海老名災害関係3者定例会（社協、危機管理、災ボラ）
養成講座の打ち合わせ；社協（中島、岩沢）、危機管理（山口、野地）、災ボラ（橋本、福田）
2月16日（金）9時30分～養成講座の資料などの印刷（橋本、福田）

② 2018年の「災害救援ボランティア・コーディネーター養成講座」の振り返り

【共催】海老名市社協、海老名災ボラ、協力：海老名市、神奈川災害ボランティアネットワーク
〈第1日目〉2018年2月17日（土）10時～15時30分 講座+救援センター立ち上げ訓練

・受講者合計29名、（海老名市民11名、社協18名）、主催側の社協1名・危機管理2名

災ボラ9名（橋本、福田、水本、野中、野本、吉野、三宅、佐々木、中村）、主催側の合計12名

●午前の講座：海老名市危機管理課（野地）、社協（中島）、災ボラ（橋本）

●午後の立上げ訓練：受講者29名を4グループに分け、そこに指導役として災ボラ会員がついた。

役割（ボランティア役、受付係、マッチング・送り出し係、資機材・帰着係）を巡回した。

○災ボラへ入会申込5名：山本由美子、星野隆一郎、大野雅人、大野真由美、松下英樹（24日）

〈災ボラ振り返り〉一般受講者「振り返り」まとめを参照（メーリング・リスト2月20日付に添付済）
（意見1）主催者である自分の反省も含めて次の点を強調したい。従来は第1日目が講座（座学）、第2日目は「救援ボランティアセンター・マニュアル」の説明と「立上げ訓練」という形で実施していた。今回は、午前中に「講座」、午後に「立上げ訓練」という形で1日に圧縮して実施した。受講者に「マニュアル」を印刷して配布し、その説明をしてから実地訓練に入るというやり方を行わなかったため、受講者がよくわからなかったのではないかと。「十分な時間をかけて訓練を丁寧に実施すべきだ」と思う。

（意見2）ボランティア・センターには、被災者対応とボランティア対応の2つがある。ここ数年の訓練は、被災者対応の訓練（被災者ニーズ・情報を集約し被災者支援の内容や順序などを判断する活動）は実施してこなかった。支援に来てくれたボランティアに対応する訓練だけを実施してきた。時間や訓練方法の工夫なども必要だが、被災者ニーズの把握の訓練に重点を移すことも考えられる。ボランティア対応は、全国から来る経験豊かなボランティア団体リーダーの協力を得ることで負担は軽減できる。

（意見3）海老名災ボラが実施したポスタイトを貼り付ける方法は、個人ボランティア中心に適応した方式で、東日本大震災以前には多くみられた。東日本大震災のように、津波を中心として広範囲にわたる大規模な被害が出ている場合、バスで来る大人数のボランティア団体による支援活動が中軸であっ

た。被害の内容や範囲、発災後の時間の経過によっても、被災者ニーズが変化し、支援ボランティア活動の内容も変化する。「救援ボランティアセンター・マニュアル」を固定的に考えずに、被害状況や参加するボランティア形態（団体中心か個人中心か）によっても柔軟に検討する必要がある。

（意見4）説明役をやった災ボラの会員だが、配布された「マニュアル（要約版）」の理解が十分でなく、また、災ボラ会員によっても理解の仕方が違っており、十分な説明ができなかった。受講者の皆さんに混乱を与えてしまったのではないか。やはり、説明役となる災ボラ会員だけで、予行演習をやっておけばよかったと思う。

〈第2日目〉2018年2月24日（土）10時～15時30分、相模川水害防災講演会、ICT活用学習

- 受講者：海老名市民9名（17日に出席した11名のうち2名欠席）、危機管理2名、社協2名
災ボラ8名（橋本、水本、福田、野本、野中、石橋、佐々木、小澤）、合計21名
市外：合計18名（神奈川県災ボラ4名、綾瀬災ボラ3名、横浜市泉区災ボラ1名、その他）
- 午前の講座：相模川流域水害防災講演会
「かながわの風水害対策」（県災害対策課、石渡勝志氏）
「防災気象情報の利活用」（横浜地方気象台水害対策気象官、安藤岳志氏）
「災害から身を守る～水害への備え」（県河川課、吉川務氏）
- 午後の部：熊本自身の教訓とスマート本などICT利活用状況を知る勉強会
講師予定の内田理（東海大学情報理工学部教授が病気で欠席、神奈川災ボラの高坂氏が代理で説明）
〈感想1〉神奈川県や横浜気象台がさまざまな情報を発信していることは分かったが、その情報を使って、自分たちがどう行動すべきかの「判断」については、なかなか難しいと思った。

（3）今後の予定及び事業内容の検討

① 3月5日（月）海老名災害関係3者定例会（3月）、災ボラ出席予定（橋本、福田）
テーマ：コーディネーター養成講座の「振り返り」、災ボラの定期総会など

② 平成30年度の海老名災ボラ定期総会について

- 日時：4月14日（土）14時～16時、定期総会を開催
懇親会 17時～19時、総会終了後に懇親会を開催（海老名駅周辺で実施）幹事（水本、野本）
- 会場：海老名市総合福祉会館、第1～第2会議室または元気クラブ室

〈平成30年度の役員候補者〉3月上旬時点

| |
|---|
| 代表：福田博、副代表：水本晶子、（未定 ）、 顧問：（橋本賢司、前代表） |
| 会計：松井俊輔（主担当）、三宅良子（補佐担当）、会計監査：野本みな子、（未定 ） |
| 事務局：事務局員の役割分担を明確にして、それぞれの特技を十分に活かして頂く。 |
| A ホームページの運営、ネットワークだより、広報活動：野中義彦、舘登志子 |
| B コーディネーター養成・立上げ訓練など（マニュアルを含む）佐々木茂、吉野達志 |
| C 各種勉強会の企画立案・実行：中村敏一 |
| D 地域や自治会の防災訓練の支援（山下康秀）（小澤昌平） ⇒ 相談中です。 |

- 3月末に会計を締めて決算報告を確定し、会計監査を受ける（4月1日～3日に）
日程調整と関係者への連絡は、平成29年度会計・三宅。
- 定期総会の案内状（来賓向け・会員向け）及び委任状の郵送：（橋本代表）
平成30年度の会費（振込用紙を同封）
- 議案書の作成：議案書の形式としては、平成29年度の議案書をモデルとする。

第1号議案：平成29年度事業報告（提案は29年度の代表：橋本賢司）、
 第2号議案：平成29年度収支決算書（提案は29年度の会計：三宅良子）
 会計監査報告（提案は29年度の会計監査：松本愛子、永山八郎）
 第3号議案：平成30年度役員選出（案）：（提案は29年度の代表：橋本賢司）
 第4号議案：平成30年度事業計画（案）（提案は平成30年度の代表）
 第5号議案：平成30年度予算（案）（提案は平成30年度の会計）

議案書が確定したら、メーリングリストで会員に配信（印刷物は当日配布）。

（4）その他

① 海老名災ボラ・ネットワークだより（2018年5月1日号）の件

記事（案）（写真付き）

1. 「海老名災ボラ、定期総会の報告」⇒ 平成30年度の事業計画について
2. 「コーディネーター養成講座」（2018年2月17日、24日）、
3. 「海老名コーポラス防災委員会の防災訓練」（2017年12月17日）
4. 「東柏ヶ谷1・2丁目防災訓練」（2017年11月25日）
5. 「ふれあい農業まつり」（2017年11月26日）
6. その他の企画案

② 海老名災ボラのインターネット・ホームページ（有料）の件

現在のホームページの有効期限が2018年5月で切れますが、討論の結果、継続することになりました。内容（コンテンツ）については、ホームページの運営・更新できる技能のある会員（事務局）を軸に、代表・副代表を含めて、検討する。

③ 「ピックレスキューかながわ」（2018年8月26日）に向けた準備

【災害ボランティア支援センター設置運営訓練（中央会場）】

平成30年4月11日（水）8時30分～17時15分、全体会議、海老名市役所、7階会議室

④ 新会員向け（4月入会）のオリエンテーション（説明会）の実施

新会員に対して、海老名災ボラの規約や現在の活動内容などについて、説明会を開催する。
定期総会の終了後、懇親会までの時間を活用する案が出されている。

次回：2018年4月5日（木）第1木曜日、19時～、総合福祉会館、第3 娯楽室（1階）

次々回：2018年5月10日（木）第2木曜日、19時～、総合福祉会館、（ ）

以上